

令和7年度第3回瑞浪市総合計画推進委員会 会議録

1. 日時 令和7年9月29日（月） 10:00～12:00
2. 場所 瑞浪市役所 2階大会議室
3. 出席者 景山 英明
河田 淳司
大宮 康一（会長）
谷 佳樹
堀尾 憲慈
佐伯 さほり（副会長）
安藤 友美
小木曾 みどり
[名簿順、敬称略]
4. 欠席者 青木 泰尚
[名簿順、敬称略]
5. 事務局 正木 英二（みずなみ未来部長）
工藤 雄一（企画政策課長）
坂崎 慎一郎（企画政策課長補佐兼企画政策係長）
三浦 啓輔（企画政策課企画政策係）
6. 日程
 1. 会長あいさつ
 2. 議事
 - （1）第2回会議録（案）について
 - （2）2次評価について
 3. その他

1. 会長あいさつ

2. 議事

(1) 第2回会議録(案)について【資料1】

<意見、質問等なし>

→発言者の氏名は伏せ、市ホームページで公表する。

(2) 2次評価について【資料2】

【シティブロモーション課より事業説明】

1. 地場産品ブラッシュアップ事業

(委 員) 令和6年度は4事業者の商品を監修したとのことだが、具体的にどのような商品か。

(シティブロモーション課) 既存商品の新たなカラー展開を増やすことや、タイルを使ったインテリア用品、アロマディフューザー、陶器でできたブローチなどを監修いただいた。

本事業は、令和4年度から3年間実施し、およそ150商品を開発した。普段、事業者のアイデアとしては商品化されないようなものを株式会社ビームスが監修することで、若い人にも受け入れられやすい商品を開発することができた。

(委 員) 令和6年度に監修を受けた事業者は全て陶器に関わる事業者であったか。

(シティブロモーション課) おっしゃる通りである。7件の応募があったが、株式会社ビームスの選考により4事業者全てが陶器関係の事業者となった。

(委 員) 陶器の監修が多かったとのことだが、美濃焼とみずなみ焼の関係はどのようなか。

(シティブロモーション課) みずなみ焼というのは、美濃焼の中でも瑞浪市内で生産され、かつ耐水性や耐熱性に優れるなど高付加価値がついているものを指すと認識している。

(委 員) この事業を実施したことで、商品がより売れるようになった等の効果はあったか。また、目標値が令和5年度と令和6年度で数字が異なるのはなぜか。

加えて、令和6年度の投入コストが、およそ1,500万円であるが、寄附額にどれだけ影響があったか。

(シティブロモーション課) 目標値が異なるのは、令和6年度から目標指標を変更したためである。令和5年度までは、本事業の目標値は本事業を含む全ての寄附件数としていたが、令和6年度から正しく事業を評価するため、本事業でブラッシュアップされた商品を返礼品として選択された寄附件数に変更した。

本事業でブラッシュアップされた商品だけの寄附額は、令和4年度から令和6年度までの3年間の平均で約1300万円であった。全体の寄附額は、本事業を開始する前の令和3年度は約1億8000万円、令和4年度は1億9877万円、令和5年度は2億4486万円、令和6年度は2億7904万円と年々増加しているため、本事業の効果だけではないが、右肩上がりであることは事実である。

実施した3年間、毎年、監修を受けた事業者に対しアンケートを行った。ふるさと納税の返礼品以外にもブラッシュアップした商品を販売しているが、なかなか売れないという声がある一方、事業者によっては、開発した商品だけで売り上げが約10倍に上昇したり、年間で600万円程度収益が増加したといった声もあった。全ての商

品が全て上手くいってはいないものの、開発した商品自体がふるさと納税の返礼品以外としても評価を受け、市内産業の活性化につながっていると効果を感じている。

また、売上以外での効果として、株式会社ビームスという大きなセレクトショップと一緒に仕事ができるという点で、社員が商品開発の面白さを実感し、やる気に繋がったという報告も受けている。また、これまでOEMしか対応していなかった事業者が、本事業をきっかけに自社ブランドを立ち上げたという声もあった。

(委 員) 株式会社ビームスに委託した経緯、理由は何か。

(シティプロモーション課) 株式会社ビームスには、地域活性化のため日本の地場産品を取り扱うビームスジャパンというレーベルがある。他市町村とタイアップし、地域活性化の取組を行っていることを承知していたので、瑞浪市でも面白いことを一緒にできないかと考えていた。

令和4年度に公募型のプロポーザルを実施したところ、他事業者よりも良い企画提案をした株式会社ビームスに決定し、令和5、6年度は、事業の継続性を保つために随意契約で業務を委託した。

2. 域学連携推進事業

(委 員) 問題課題に記載のある「学生グループが立ち上がらない学校もある」と「ミライ創ろまい課への大学生の積極的な関与がない」について、その理由、原因はどのようにお考えか。

(シティプロモーション課) 「ミライ創ろまい課への大学生の積極的な関与がない」ことについては、時間が合わないことが一番の原因であると考えている。ミライ創ろまい課は、平日の夕方、市役所内で活動しているため、大学へ通学している学生がその時間帯に参加することが難しい。一度、岐阜大学に協力いただきオンラインで参加していただいたが、意思疎通が難しかった。中部大学の学生と商品開発の取組をしたことがあるので実績がないことはないが、毎回積極的に関与いただく取組はない。今後、通常の活動が難しいのであれば、イベント等をきっかけとして何かできないか検討している。

域学連携推進事業交付金については、市内に高校が3校あることから、高校には積極的に活用していただいている。また、大学で域学連携協定を締結している、岐阜大学と中部大学には、それぞれ年間1件は本交付金を活用した事業を行っていただいている。中京学院大学とも域学連携協定を締結しているが、近年事業を行っていただけていない。これは、市からの声掛けが足りないことが原因であると考えているが、強制するものでもない。引き続き、大学に対して、交付金を活用した事業を主体的に取り組んでいただけるよう声掛けをしていく。

様々な団体から市に対して、域学連携で学生と一緒に事業を行いたいとの声があるが、それについては、どの高校も大学も積極的に関わることができているので継続したい。

(委 員) 令和6年度の具体的な事業の内容と、それに対し市はどのような支援を行っているか。

(シティプロモーション課) 学生が主体となって化石検定を実施したり、廃棄される麦芽を使ったパンやお菓子を開発したり、また、昨年度は市制70周年記念のイベント時にその会場で、ミライ

創ろまい課のブースを運営するといった事業を実施した。

他にも、まちづくり団体と一緒に耕作放棄地を活用して花畑を作ったり、瑞浪高校が探究活動の一環として、恵那川上屋の協力のもと、半原かぼちゃという地元野菜を使ったサブレを開発したり、中部大学は、日吉町まちづくり推進協議会と連携し、協議会が保有する野菜等を乾燥させる設備を活用し、ふりかけのレシピを考案した。

市は、協力していただく団体等との調整を行うなど支援をしている。

(委 員) あと1件で目標値を達成することができたが、これは、学校側が交付金を活用する事業のアイデアがないのが原因なのか、受け入れ側の市や団体が受けきれないことが原因なのかどちらか。

(シティプロモーション課) その両方が原因であると考えている。

令和6年度に交付金を活用していない学校もあるので、そういった学校に活用いただければ、目標を達成できる。また、交付金に頼らずイベントを開催している学校もあるので、市に交付金申請するよう呼びかけを行いたい。

(委 員) 交付金を使っていない事業、例えばインターンシップ生の受け入れについても、実際に費用は発生していないものの域学連携ではあるため、そういった案件もカウントすれば、目標は達成しているのではないかと思う。

(委 員) 令和5年度と令和6年度の合計で82件の連携事業があったが、その中で特別に効果のあった事業は何か。

(シティプロモーション課) やはり、形が目で見えてわかる事業は評価したいと考える。先ほど具体的な事業として挙げた瑞浪高校と恵那川上屋が協力して商品開発をした岐阜・瑞浪サブレや、市内のパン屋と協力して商品開発をした麦芽パンや焼き菓子、日本料理きん魚と協力して商品開発をしたお米で作った万能タレなどといった商品開発をした事業は域学連携の中でも成果があるものと評価する。

これまで高校生たちは、ボランティアとしてまちに関わる機会があったが、ミライ創ろまい課の立ち上げをきっかけに、主体的にまちづくりに関わる仕組みづくりができたこと自体が成果である。

令和7年度までで、およそ140人もの学生がこのミライ創ろまい課を通じて、月に2日、自主的に集まって自分たちがやりたい企画を考え、それを民間の事業者とタイアップしてやっていくことをしている。

このような経験をすることで、卒業後、一時的に瑞浪市から離れたとしても、また戻ってきて瑞浪市で活動したいと思えるよう、高校生のシビックプライドは育っていると感じているので、本事業は継続する必要があると評価している。

現在、瑞浪市にあるまちづくり団体を見ると、多くの方が、一線を退いてリタイアされた方で構成されているため、若い方が参画できる機会がないというのが課題であった。そういった意味で、このミライ創ろまい課がまちづくり団体の中に入って活動することで地域活性化ができていないかと評価している。

また、手前味噌ではあるが、この「ミライ創ろまい課」という固有名詞が、全国的にも有名になってきており、毎年2、3件ほど他の市町村議会の議員が視察に訪れる。直近では、埼玉県深谷市が訪れ、今度、秋田県北秋田市からも視察に訪れるので、一定の成果はあると評価している。

3. お試し移住体験事業

(委 員) ふるさとワーキングホリデーのプロモーションの方法はどのようなか。また、参加者は、具体的にどのような事業者に従事し、どこに宿泊しているのか。

(シティプロモーション課) 周知方法としては、令和5年度にプロポーザルで選定した委託事業者を通じ、市の公式Instagramを活用し、SNS広告で発信したり、総務省のポータルサイトの特集ページから応募できるようになっている。

令和5年度、令和6年度とそれぞれ10人ずつ募集したところ、令和5年度は38人、令和6年度は44人の応募があった。応募があった全員と面談を行い、瑞浪市に対して熱い思いがある人をそれぞれ10人選定した。

従事先については、例えば、クラフトビールの製造販売を行うカマドブリュワリーや陶器メーカーの深山、タイルメーカーの玉川釉薬、養蜂業を営むBEE FARM ASANOなど様々な業種に受け入れていただいている。

宿泊場所は、市内の空き家を活用したり、カマドブリュワリーが運営するゲストハウスで共同生活を送り、参加者同士で交流していただくプログラムにしている。

(委 員) 参加者の対象年齢はどのようなか。また、土岐市に外国人が通う日本語学校ができるが、そこに通われる方も対象となるか。

(シティプロモーション課) 対象年齢を決めてはいないが、実際に参加者は20代前半の方が多い印象である。瑞浪市で参加していただいている方はこれまで全員が県外の人である。本事業は、瑞浪市への移住定住を視野にも入れて行っているが、実際に移住していただくことは難しいと感じている。それよりも今後、継続的に瑞浪市と関係性を持てるような人を掘り起こしたいと考える。そのような点から、いつまで日本に滞在するかわからない外国人で、県内の日本語学校に通う外国人はワーキングホリデーの対象として想定していない。

(委 員) ふるさとワーキングホリデーの期間が2週間では短いと感じるが、長くはできないか。

(シティプロモーション課) 参加者の滞在費として、市は1日あたり5000円を補助しており、受け入れる人数も含め考慮し、予算との兼ね合いで期間を2週間としている。事業者も参加者に対し、賃金を払わないといけないため、総合的な検討を行い、適切な期間を設定する必要がある。全国的には、2週間から3週間程度が一般的である。

(委 員) 参加者の滞在費について、税金を使って支援するため、滞在期間を年単位とすることは難しいことと承知するが、本事業に関わった事業者が、独自に1年もしくは2年とふるさとワーキングホリデーを実施することとなった場合、それに対する支援について市はどのように考えるか。

(シティプロモーション課) 令和6年度に参加した人の中には、もう少しその事業所で働きたいということで、従業員の家に宿泊まりし、自費で滞在期間を1週間延長した事例がある。また、今年度も既に本事業を行ったが、その運営スタッフとして1年目に参加した人が協力していただいた。

このように、ふるさとワーキングホリデーでの滞在が終了してからも瑞浪市に関わりを持っていただけることが目的であり、今後もそういった方を増やしたいと思

う。市として、何か支援できることがあれば今後検討したい。

【健康づくり課より事業説明】

4. 小児インフルエンザ予防接種費用助成事業

(委 員) 対象者が中学3年生までかつ、1回当たりの助成額が2000円というのは、他の自治体と比較して手厚いものか。

(健康づくり課) 県内自治体の助成額の多くは2000円である。対象者については、市町村によって高校3年生までとしているところもあれば、多治見市のように修学前までを対象としている自治体もある。

(委 員) 1回あたりの予防接種につき2000円の助成とのことだが、接種費用はいくらか。

(健康づくり課) 任意接種であるため、それぞれの医療機関が設定している。地域によって差があり、瑞浪市はおおよそ4500円程度で接種が受けられる。恵那市では5000円というところもあるが、多治見市では3000円台のところもある。

(委 員) 多治見市では、小児科でなかなか予防接種を受けることができず、接種を諦めるか仕事を休んで受けに行かなければならない状況である。瑞浪市の場合、接種したいと思ったときに接種できる状況であるか。

(健康づくり課) 高齢者で接種の予約が取れないという相談はあるが、子どもの接種については、あまり相談がないため、多治見市よりは予約が取りやすい状況であると認識している。

(委 員) 多治見市より予約が取りやすい状況であるのは、医療機関が多かったり、診療時間が長いといった要因があるのか。

また、他市での接種は対象となるか。東濃地域で、例えば勤務先にある医療機関で接種できたらより接種率が上昇すると考える。

(健康づくり課) 多治見市は、就学前までの助成という点で異なるが、決定的な要因は把握していない。

また、あくまで任意接種であるため、他市での接種は対象ではなく、市内の指定医療機関での接種が助成対象である。

(委 員) 実績値が目標値より低い理由について、ワクチン接種に対する認識が多様化しているということが挙げられているが、金銭的な面で接種が受けられないということについて、市はどうお考えか。

(健康づくり課) 助成額2000円が高いのか安いのかは、世帯の収入によると考える。やはり任意接種であるため、個人負担金をとるべきものと認識しており、市としては経済的な負担軽減を図っているということでご理解いただきたい。

(委 員) 令和5年度の目標値を50%としたのは、何を参考にされたか。

(健康づくり課) 令和2年度は接種率が51%であったため、それに基づき設定していた。令和6年度からは、それを達成することは厳しいと判断し、実績に即した目標値とした。

(委 員) 任意接種であると言いつつ、瑞浪市では、市民の健康を守るために本事業が行われているが、健康増進、健康維持のため、市としては全員が接種した方が良いという方向性であるか。

(健康づくり課) 予防接種には、健康被害がつかまとうものであるため、100%を望んでいるわけ

ではない。有効性を理解した上で、接種したいという希望がある方に対して、助成するものであり、より高い接種率を狙う方向性ではない。

(委 員) 感染症は様々なところに影響がある。特に小学校、中学校、高校では、学級閉鎖、学校閉鎖が発生する可能性がある。予防接種を受ける人と受けない人がいると、結局のところ学級閉鎖、学校閉鎖が起きてしまう。勉強ができない環境になってしまうことについて、特に私立中学校がある瑞浪市ではその方向性とバランスが難しいと推測するが、そういった議論はないか。

(健康づくり課) これについても、あくまでも任意接種であるということが、一番大きい理由である。定期接種であれば、市として推進する必要があるが、任意接種であるため、保護者が希望すれば、接種を受けた児童生徒に対し助成するまでである。

【農林課より事業説明】

5. 農産物等直売所管理経費（指定管理）

(委 員) 先日の「東濃圏広域観光PR事業」にて東美濃地域で取組が行われていると伺ったが、東美濃地域で瑞浪ポーノポークを活用し、PRに協力いただくような取組はあるか。

(農林課) 瑞浪ポーノポークは、平成24年に開催したぎふ清流国体ときなあた瑞浪のオープンに合わせて、岐阜県と共にブランド化した豚肉である。それ以降、東京都や名古屋市内で瑞浪ポーノポーク生産振興協議会が認定した料理店を出店いただいたり、毎年、岐阜県農業フェスティバルへ出店することで知名度が向上してきたと認識している。

ただし、東美濃地域において、瑞浪ポーノポーク生産振興協議会が認定した販売指定店はあるものの、瑞浪ポーノポークを活用したイベント等は開催されていない。「東濃圏広域観光PR事業」の一環で作成したパンフレット「ひがしみの楽しみ方」で、瑞浪ポーノポークのPRをしている。

(委 員) 頻繁にきなあた瑞浪の周辺に行くが、あまり混み合っている様子を見ない。バーベキュー場の利用状況はどのようなか。

(農林課) きなあた瑞浪バーベキュー場は、令和5年6月にオープンした。1年目は利用者が想定していたより伸びず、2447人が利用した。令和6年度はデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、広くPRした結果、2657人にご利用いただき、前年度比200人増加した。

令和7年度は、メニューを見直したり、夜間営業にて駅などから送迎を試験的に始めているため、土日は満員になることが増えてきている。

昨年度は市制70周年記念事業の会場をバーベキュー場にするなどし、今後も間接的な手法も含め認知度を向上させたい。

(委 員) 子どもが遊べる場所や駐車場の在り方等を見直し、もっと利用者が増えて賑やかになってほしいと願う。

(委 員) 新商品とは、具体的にどんなか。

(農林課) 令和6年度は、瑞浪ポーノポーク入りのカレーパンと、ハム工房にて赤ウインナーを開発した。

- (委 員) 課題に対する改善策として、新商品の開発とあるが、例えば、夕方に買い物に行っても、安定的に地元の野菜が並んでいるだとか、そういった違う観点からの改善点はあるか。
- (農林課) 出荷者に対して、時期によって不足したり、また、人と被らない野菜の作り方などの各種研修を行っている。
- (委 員) きなあた瑞浪で、地元の野菜や瑞浪ポーノポークを販売していることは承知しているが、例えば、他の産地の野菜や果物等を仕入れて販売することは考えていないか。
- 可児市にある道の駅可児ッテが流行っているのは、そういった商品が置いてあるからだと考える。
- (農林課) 地元の出荷者の野菜だけでなく、例えば、開田高原のトウモロコシなど他の産地のものを仕入れて販売もしている。
- (委 員) きなあた瑞浪で瑞浪ポーノポークが売れたり、バーベキュー場でたくさん食べていただくことはもちろん大切ではあるが、この東美濃地域で、豚肉といえば瑞浪ポーノポークであると言われるようになると良いと思う。例えば、土岐市にある、ちちやのカツ丼のカツが、全て瑞浪ポーノポークになれば、地域が協力しているように感じられる。確かに豚肉を生産しているのは瑞浪市だけではないため、特別扱いはできないと思うが、東美濃地域が連携して、瑞浪ポーノポークを全面的に推すことができる関係性があるとその連携に意味があると思う。
- また、きなあた瑞浪へ買い物に行けば、地元の特産品はもちろん、他の地域の特産品など種類が豊富で珍しいものが購入できれば良いと思う。そういった特色ある施設になることが、今後、きなあた瑞浪が生きる道の1つであると思う。
- (農林課) いただいたご意見を指定管理者と共有し、今後、事業を進める。

【企画政策課より事業説明】

6. 市制70周年記念事業

- (委 員) 参加者の市内外在住の割合はどれぐらいか。
- (企画政策課) 応募代表者の住所でお答えさせていただくと、参加総数264組のうち、193組のおよそ73%が瑞浪市からの参加で、残りの71組が市外からの参加である。
- (委 員) 市制70周年を記念した事業であり、市民と共に祝うということで、市内に向けた募集であったか。
- (企画政策課) プロモーションについては、市広報誌に掲載するなど市内に向けたものが多かった。市ホームページでも取組を紹介したため、市外の方がそれを見られて応募いただくことができた。このイベントは、市民だけでなく、瑞浪市に縁のある方も対象にしたいと考えていた。
- (委 員) きなあた瑞浪で開催したとのことだが、当日の売上が良かった等把握しているか。
- (企画政策課) 売上は把握していないが、当日のきなあた瑞浪への来場者が4037人と、令和6年度で一番多かった日であることは確認している。
- (委 員) 知名度のあるギネス世界記録に挑戦されたのであれば、効果的にマスメディアを活用されると良いと思う。地元のメディアから全国的なメディアに取り上げられる機会を増やすことで、瑞浪ポーノポークや化石などの瑞浪市の魅力を全国に発信できると

思う。

(企画政策課) 本イベントは、東海テレビやおりべネットワークなどから取材を受け、特集やニュースとして取り上げていただいた。その他にも多くの新聞社等からも取材を受け、そういった成果もあって、多くのご応募をいただけたと感じている。今後もマスメディアを活用し、瑞浪市の魅力発信に努めたい。

(委 員) 令和5年度の実績値に記載のある1万人は、プレイベントへの参加者ということか。

(企画政策課) その通りである。令和5年度のプレイベントのメインとして、暮らしの彩りマーケットと共催して、野外映画祭を開催した。会場は市民公園で、市は公園内に大きいスクリーンを用意し、映画を放映した。暮らしの彩りマーケットは、ナイトマーケットを運営していただき、1万人もの多くの方が来場し、盛大に開催することができた。

(委 員) 市外からの参加者が多数あったと説明があったが、本イベントを通じて目に見えた効果はあったか。

(企画政策課) 本イベントの後の11月に開催した農業祭では、ギネス世界記録の認定証を客に見えるところに設置し、また、ギネス世界記録に認定された瑞浪ポーノパークとして積極的にPRした。

それによって売上や来場者が増えたといった数字を正確に把握しているわけではないが、来場者が増えていることは、ギネス世界記録を達成したことも影響していると考える。

3. その他

・事業評価シートの提出について

10月7日（火）までにメールまたは紙媒体で提出

・次回以降の瑞浪市総合計画推進委員会の日程について

第4回 10月22日（水）13時30分より 4階全員協議会室

第5回 11月13日（木）13時30分より 4階全員協議会室

以上